

支援機関×ITコーディネータでユーザー満足度向上 ～支援機関のITC活用～

CASE2 財団・商工会連合会・団体中央会

ITコーディネータはITの専門家であると同時に、知的資産経営の専門家としても最適
—富山県・富山県中小企業団体中央会／ITC宇田川静夫氏／株式会社アイベック—

富山県中小企業団体中央会は、富山県内の事業協同組合、協業組合、商工組合、商店街振興組合、生活衛生同業組合という中小企業組合の組織、事業および経営の指導、その他組合の健全な発達を図るための事業を行い、併せて中小企業の振興を図るために必要な事業を行うことを目的に昭和31年に設立。組合の組織化をはじめ、その運営を支援する専門指導機関である。組合数440。合計すると、加入している企業は28,000社にのぼる。

「現在は組織化という活動だけではない。個別のやる気のある中小企業を支援しています」と語るのは工業振興課の米谷孝行氏。

現在中央会では、国の中小企業支援ネットワーク強化事業に支援機関として参加し、経営革新、地域資源活用、農工商等連携、事業再生・再チャレンジ、事業承継、ITを活用した経営力強化、知的資産経営などの相談を実施している。

気軽に来てもらえるように 場所を借りて相談会を開催

富山県中小企業団体中央会には工業だけでなく流通業や建設業の組合もある。平成20年度の地域力連携拠点事業のときは、幅広くこの事業に対応していくために一部の職員だけでなく中央会全体で取り組んだ。そのとりまとめ役として活躍していたのが米谷氏だ。

「地域力連携拠点事業では、相談会も開催しました。中央会は全県を対象にしていますが、事務所は一箇所しかないの、気軽に相談に来ていただけるように平成20年7月から富山市と高岡市にある会員組合の会場を借りて、週1回のペースで相談会を開いたのです」

相談は経営方針に関連したものが中心だった。現在やっている事業をこのままやっても将来像が見えない。新しい分野への進出も検討しているが、ノウハウや経営資源を生

かしながらどういう方向へ進めばいいのか。そのような相談が多かったという。

この地域力連携拠点事業は中央会が個別に支援機関として参加していたが、平成22年度の中小企業応援センター事業、平成23年度の中小企業支援ネットワーク強化事業では、商工会議所、商工会連合会など5つの支援機関が一緒になってグループを作った。毎月会合を持ち、どんな企業を支援しているのか、どんな専門家を派遣しているかなどの情報をお互いに交換し合っている。

経営者と課題を見つけ出す 「伴走型支援」が必要

富山県中小企業団体中央会の米谷氏はITコーディネータでもある。富山県ITコーディネータ情報連絡会が開催した研修会に参加し、ITコーディネータの役割や使命を知ったという。そして、平成14年にITコーディネータの資格を取得した。

「中小企業支援ネットワーク強化事業では、特にITを活用した経営力強化、知的資産経営の分野の専門家としてITコーディネータに役割を担ってもらっています」

中央会の職員でITコーディネータは米谷氏一人だけなので、支援には外部のITコーディネータを専門家として派遣することになる。独立系のITコーディネータである宇田川静夫氏もその一人だ。

「中央会からの相談はとても幅広いですね。最初はITの相談でも、経営や人材育成につながっていくことが多い。だからそれに対応するために毎日が勉強。できないと言ったらそれで終わってしまうので、時間を

もらって必死に勉強するのです」
そのときは無我夢中で学ぶが、それは自分のスキルの幅を広げることにつながる。結果的には経営者に育ててもらったことになるという。今後も中央会をはじめとする支援機関と連携し、中小企業の経営課題を解決するために支援を続けていきたいと考えている。

「ITコーディネータはITの専門家であると同時に、知的資産経営という点からも専門家としては最適です。さらに、弁護士や税理士などのいわゆる士業の方は専門的なところしか対応できない。今後は課題の幅

がとても広がるので、ITコーディネータの活躍の場が広がる。同時に、学ばなくてはいけないことがどんどん出ている。ITコーディネータの方には、日々研鑽に努めてほしい」(米谷氏)

これまでの支援は、特定の課題を解決するために専門家を派遣するケースが多かったが、今後は「伴走型支援」というか、経営者と一緒に課題を見つけ出すと

ころから始まって、どうやって解決していくかまで共に考えていくことが必要となる。中央会の職員はコーディネータであり企業と専門家のつなぎ役でもある。すべてはできないが、自分の特徴を生かして、さらに支援の幅を広げていきたいという。

〈支援機関概要〉

富山県中小企業団体中央会
富山県富山市総曲輪2-1-3 富山商工会議所ビル6階
<http://www.chuokai-toyama.or.jp/>
設立：昭和31年2月6日

ITコーディネータ

有限会社システムユニオン 取締役社長 宇田川 静夫 <http://www.sys-uni.co.jp/>

ユーザーインタビュー

「ITだけでなく経営のことも 適切なアドバイスをさせていただけた」

アイベック(富山県富山市)

—まずはアイベックさんの会社概要をご説明ください。
吉岡裕一社長(以下、吉岡) ■昭和51年創立で、非破壊検査の事業からスタートし、その後計測・環境計量、診断調査などあらゆる構造物の調査、検査に関わる業務を開始し、現在では補修のコンサルタントや計測機器の販売なども行っています。
経営理念は「百年の大計 人と公」。高い技術力と開発力を生かして、総合診断会社としての地位を確立し、社員のやりがいを実現するとともに社会に貢献する企業を目指しています。
旧社名は富山検査。平成22年に社名をアイベックに変更しました。

—富山県中小企業団体中央会から支援を受けられたきっかけは？
吉岡 ■平成20年に経営戦略企画書の作成のために派遣を依頼しました。それ以前、私が社長に就任した平成16年のころから経営の見直しを行っていたのですが、具体的に中期経営計画を立てるに当たり、国の地域力連携拠点事業というのがあることを知り、中央会のほうへ相談したのです。

特に経営に行き詰まりを感じていたわけではなかったのですが、きちんとした形で計画を立てていなかったので支援をお願いしようと思いました。
—ITコーディネータの宇田川さんとはそれがきっかけで知り合ったのでしょうか？

吉岡 ■いいえ、平成16年に受けた経営者研修会に講師としてみえられていて、そのとき以来の付き合いになります。最初は宇田川さんにバランス・スコアカードの策定支援をお願いしました。私は会社を何とかしようと意気込んでいたのですが、私の頭の中で考えているだけでなく、経営幹部との意思疎通が必要だと宇田川さんから指摘されました。

—ですから、平成20年には宇田川さん、そして経営幹部と一緒に経営戦略企画書を策定することにしました。実は宇田川さんには平成18年から人材育成計画のアドバイスもお願いしていました。社員の意識向上とコミュニケーション能力アップのために、管理者教育と一般社員教育に分けて実施していたのです。
—専門家としての宇田川さんにはどんな印象をお持ちですか？

吉岡 ■自分の思いをきちんと伝えられる方です。つまり、素直で誠実な方なのです。何でも話せますね。それと、高校の教師をされていたという経歴があり、教え方がとても上手です。
もちろん、ITコーディネータとしての宇田川さんも素晴らしいと思います。ITだけでなく経営のことも適切なアドバイスをさせていただけるので、厚い信頼を寄せています。
—支援を受けられた成果のほうは？
吉岡 ■合意形成された経営戦略企画書ができ上がり、今後の経営戦略に反映できる知的資産経営の報告書も完成し、支援にはとても満足しています。また、経営幹部の意識の変革ができ、積極的に自分たちで考えるようになってきたという点も大きいですね。

株式会社アイベック

富山県富山市上野新町5番4号
<http://www.ipec-com.jp/>

事業内容：非破壊検査、計測・環境計量、診断調査、補修
コンサルタント、計測機器レンタル・販売



▲アイベックの本社前で。写真右から2番目が代表取締役社長の吉岡裕一氏、3番目が総務部長の高畑昌人氏



工業振興課 課長 米谷孝行氏



ITコーディネータ 宇田川 静夫氏